

業況調査

山形商工会議所は、各業種の現況を把握するため、協同組合を対象に業種別推進委員制度を設けている。平成28年12月から29年2月期にかけての報告は次の通り。

《立谷川工業団地（協）》
精密機械部門を中心に、ベトナムへの工場進出及びベトナム人雇用の動きが出て来ている。

《山形鋳物工業団地（協）》
機械鋳物は自動車関係が軽量化により、鋳物から別の材質に変わりつつある。併せて原材料、電気料といっ



た生産コストが上昇しており、先行きは厳しい。工芸鋳物は海外取引に向けて、新規開拓を積極的に展開している。特筆されるのは「ふるさと納税」効果。返礼品として鉄瓶の需要が一気に増えた。

《山形建設工業団地（協）》
受注・売上ともに概ね順調に推移しているが、利幅は期待ほどでもない。人出不足がますます深刻な状況に。特に現場管理部門が顕著になっている。

《山形県仏壇商工業（協）》
当組合は伝統的工芸品産地に認定されており、2月24日から27日まで全国規模の展示会へ出品した。

《山形打刃物工業（協）》
果樹の剪定（せんてい）時期に入り、剪定ばさみの注文に対応。昨年末から組員3名が脱会した。

《（協）山形流通団地》
10月から12月の報告となるが、組合を構成している食料品、繊維製品、機械金属、日用品雑貨、建材燃料の5部門すべてが対前年比マイナスとなった。企業別では約8割が売上減。各企業の建物も40年以上経過し老朽化している。低利の設備投資資金と

現況を報告し意見交換した業種別推進委員の連絡協議会（3月1日）

して、県の高度化資金の復活を求めるところを検討している。

《山形トラック運送事業（協）》
12月は繁忙期で、往復路とも荷動きは良く運賃は大幅に上昇した。しかし、1月に入ると極端に荷物が激減、週末は空車帰形せざるを得なかった。燃料販売をはじめとする組合の共同事業取扱高は前年度を上回り、概ね順調。

《山形青果商業（協）》
組合が主催し佐藤孝弘山形市長を招いての講演会を2月15日に開催した。佐藤市長は、特産品の開発につながる戦略的な農業生産、ふるさと納税による需要喚起などの施策と、市場（しじょう）の活性化について説明した。地場産の越冬物の野菜は高値で推移している。

《山形県理容業生活衛生同業組合山形支部》
2月6日、霞城セントラルで組合主催の「トレンドアップセミナー」を開催した。多くの人が関心を示してくれ、組合員の意識にも変化が表われたようだ。

《山形県美容業生活衛生同業組合山形支部》
組合員の確保と維持に向け、総会において、加入のメリットをアピールしていくことを決めた。

《山形麺類食堂（協）》
昨年10月から4カ月間、「山形そば・ラーメン案内事業」を実施した結果、来客が増加し売上に貢献した。この事業は県麺類飲食生活衛生同業組合に加盟する組合員店舗の中から、30店舗を利用してスタンプを集めると、案内人の認定がもらえる取り組み。目標を大きく上回る245人の方が認定を受けた。ブログ等で情報発信していたらいい。

《山形市管工事（協）》
水道工事は前年2月までに比べて約60件増加した。一方で下水道工事は減少。組合員の協力で、共同資材購入が大幅に上昇した。